

群 教 ゼ	G10 - 01 平15.211集
-------------	----------------------

「いのち」の重みを自覚し、自分を輝かす生き方を 追求しようとする心を育む道德教育の工夫

- 他の関連価値とつなげて深める「いのちの授業」を通して -

学校経営 G 道德教育班 長期研修員 久保えり子

研究の概要

本研究は、「いのち」のかけがえのなさ、すばらしさを実感し、それを共有することを通して自分を輝かす生き方を追求しようとする心を育む道德教育を目指した実践的研究である。「いのち」に関わる複数価値を意図的に連携させた単元型の道德「いのちの授業」を展開し、様々な生き方から子どもたちの表面的な「いのち」の価値観に揺さぶりをかけ、「いのち」の重みを自覚したよりよい生き方を創造していこうとする心を育むものである。

【キーワード：道德 中学校 いのち 価値の連携 共有】

はじめに

1 子どもの実態から

価値観が多様化し、物質的な豊かさとは逆に心が貧しくなったといわれる21世紀で、本当に大切にしなければならないものは何だろうか。「いのち」の大切さに異論を唱える者はいないが、最近の「いのち」軽視の風潮から、分かっているつもりだが実感していない「いのち」のかけがえのなさを改めて子どもたちに問いかけ、学んでいく意味は深いと考える。その「いのち」の教育のキーワードとなるのは、人との関わり、ライフスキル、問題解決能力、自己決定能力などである。謙虚に「いのち」について語り、考える時間を共有し、その考え方の違いを尊重し合う学びの場を積み上げていくことで「いのち」の視点からの自己の存在、他者の存在の認識につながると考える。

アンケート結果に見る子どもたちの「いのち」の意識（1学期実施）は以下の通りである。

「いのち」の大切さの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・何となく大事だから ・親からもらったものだから ・人間のいのちは世界で一番大切だから ・いのちは希望が託されているものだから ・自分のいのちはたった一つしかないから ・奪ってはいけないものだから ・限りのあるものだから ・かけがえのないものだから ・生きることはすばらしいことだから
「いのち」を大切にすることで育まれるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしさ ・豊かな心 ・人を敬う心 ・お互いの気持ちを理解しようとする心 ・命を粗末にする人へ注意する心 ・命の尊さや大切さが考えられるようになる ・人間関係がよくなり、自他の命を大切にしようとする心が強くなる ・自殺で命を捨てたり、人の命を奪うこと（殺人・いじめ）から命を守るようとする心 ・他人を思いやる心 ・危険なことをしなくなる ・様々な命あるものを大切にする心 ・いろいろなものを大切にする心 ・自分を大切にすること ・生きようとする気持ち ・自分を元気づける心 ・感謝の心 ・やすらかな心
	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺は逃げ ・もっと自分を大切にすべき ・自分から死のうと考えることはおかしい ・命は一生大切にすべきものだから ・一番かっこ悪いし、駄目なこと ・簡単に命を扱うのはよくない ・長生きできない人もいるのに勝手すぎる ・親からもらったものを粗末にしては駄目 ・周りの人の今までの事を無駄にする ・その人を必要とする人は必ずいるから ・自殺は何も解決しない・その死を悲しむ人がいる

図1 子どもたちの「いのち」の意識

アンケートの結果からは、「いのち」は大切と理解している様子が伺える。しかし、日常の学校生活の中では友だちを傷つける言葉を言ったり、交通ルールを無視した行動や小さな命を大切にしない一面も見られ、「いのち」のかけがえのなさや有限性の認識が知識の習得で留まっている感が強い。その認識の弱さが、命の尊さを無視した事件を引き起こさせる要因になっていると考える。

2 教師の願い、思いから

「平成15年度道徳推進状況調査結果」で、『生命尊重』を重点指導項目として取り扱っている学校は4割近くを占める。(図2参照)これは、教師自身が『生命尊重』の価値を子どもたちの心の中に育むことの必要性を強く意識し、課題と感じていることの現れである。

数字は中学178校の結果 ()内の数字は178校中の割合

	重点指導内容項目		ほぼ満足できる内容項目	
1年	4-(1) 集団生活の向上	116 (65)	1-(1) 望ましい生活習慣	123 (71)
	1-(1) 望ましい生活習慣	91 (51)	4-(1) 集団生活の向上	109 (61)
	2-(2) 思いやり	86 (48)	2-(1) 礼儀	104 (58)
	3-(2) 生命尊重	68 (38)	3-(2) 生命尊重	88 (49)
	2-(1) 礼儀	67 (37)	4-(7) 愛校心	81 (45)
2年	2-(2) 思いやり	87 (48)	2-(1) 礼儀	111 (62)
	4-(1) 集団生活の向上	81 (45)	1-(1) 望ましい生活習慣	110 (61)
	1-(1) 望ましい生活習慣	77 (43)	4-(1) 集団生活の向上	96 (53)
	3-(2) 生命尊重	67 (37)	2-(3) 信頼・友情	91 (51)
	1-(3) 自主・自律	64 (35)	4-(5) 勤労・社会への奉仕	91 (51)
3年	2-(2) 思いやり	73 (41)	4-(1) 集団生活の向上	115 (64)
	4-(1) 集団生活の向上	73 (41)	2-(1) 礼儀	111 (62)
	1-(1) 望ましい生活習慣	68 (38)	1-(1) 望ましい生活習慣	104 (58)
	3-(2) 生命尊重	61 (34)	2-(3) 信頼・友情	102 (57)
	1-(3) 自主・自律	58 (32)	1-(5) 向上心、個性の伸長	94 (52)

図2 平成15年度道徳推進状況調査結果(群馬県)

置籍校でも、指導内容項目についての道徳アンケートを行った(図3)が、近年の社会問題や現代っ子の精神的なもろさを支える手立てとして「生命尊重」が取り扱われている。

【授業でよく取り扱う内容項目】				【育ってきていると感じる価値項目】			
価値項目	1年	2年	3年	価値項目	1年	2年	3年
3-(2) 生命尊重				1-(1) 望ましい生活習慣			
1-(2) 勇気、不撓不屈				1-(4) 理想の実現			
望ましい生活習慣 1-(1)				2-(1) 礼儀			
個性伸長 1-(5)				4-(7) 生きる喜び			
感謝、思いやり 2-(2)				【生命尊重を取り扱う理由】			
愛校心 4-(7)				生きるうえでの基本で、命を大切にしようとする心が育っていれば、苦しいことにも耐え、逞しく生きていけるから			
				未成年による殺伐とした事件が多くなっている情勢から			
				自他の命を大切にすることが人間的成長を育む			

図3 道徳アンケート結果(置籍校)

子どもたちの命に対する価値観が危ぶまれ、「いのち」の大切さを伝えたいという教師の思いは重点指導内容としての扱いに現れている。しかし、調査結果から『生

命尊重』の価値が『望ましい生活習慣』1-(1)のように子どもたちの中にその変容が現れてきていないのも明らかである。扱う頻度は高いのに内面化が図れないのは何故か。ここに道德の難しさと大きな問題点があり、教師として、多様化する価値観の中でどのように自分らしい生き方を創造させていくべきなのかが問われてきていると考える。

道德的価値の内面化の難しさについては、置籍校だけでなく総合教育センターの研修に参加した教職員からも次のような回答が寄せられた。

副読本に頼った通り一遍の授業で、心に揺さぶりがかけられない
価値項目にあった資料の開発不足
本音に迫る発問の工夫がなく、ワンパターンの発問の繰り返しとなっている
資料から離れ、自分の事として価値項目を引き寄せる仕掛けが展開の中で作れない
普段の自分を振り返り、じっくりと自分の心を見つめさせる問いかけが難しい
価値の取り扱いが難しく、1回の授業では子どもの内面に迫れない
教師の価値項目の理解不足

ここで浮き彫りとなったのは、生徒の内面に迫るための手立てである。教師の思いを生徒に伝えていくには、従来の教師主導の道德の授業を展開していたのでは価値の内面化は難しい。アンケートの回答の中にも、「いのち」の尊厳の内面化には外部講師の活用や体験活動を取り入れた授業の必要性を感じるとする意見が多く、生徒主体の授業改善が望まれる。

自分が今まで道德授業の中で大切にしてきたのは子どもたちの心の中に生じる「ゆらぎ」である。前向きな思考で子どもたちが自分自身と向き合い、今後の自分の在り方を選択する。社会の一員として、どのように生きていくことが自分を輝かせていくことに通じるのか、1時間の授業の充実を目指して他教科と連携した道德の実施を行ってきたつもりであった。しかし、1時間の道德では、価値の内面化への窓口は開けるものの、一人一人の心に深く根をおろさせるには至らなかった。体験を生かした道德授業や、外部講師や保護者を巻き込んだ道德の授業など、連携を意識した取組の中で価値の内面化が深まることは周知の事実である。とすれば、道德の授業そのものも、関連する内容項目を連携させて実践を重ねていくことで、生徒自身がじっくりと自分自身の道德性を高めていくことができ、学びの定着につながるのではないかと考えた。

3 群馬県の行政方針から

平成12年度の「道德教育推進状況調査」で、道德の時間に満足しているのは小学生45%、中学生はわずか4.9%という結果が出された。その原因としては、

選択した資料が心に響かない

自分のこととして考え、切実感をもって授業に臨むことができない

教師の価値観の押しつけや行為そのものを是正しようとする指導観、また、教師の価値理解の甘さが児童生徒の道德的価値の自覚を深めることを妨げている等が指摘された。

このような実態を受け、体験活動を生かした道德の授業の推進など、子ども主体の学びを開くための授業改革が行われてきた。さらに、未成年による命を軽視した事件の多発から、心の教育の重要性が見直され、自分自身を見失わない心の育成を目指す道德教育の充実が「新ぐんま教育プラン」(平成13年3月)で打ち出された。この中で、「命の大切さや他人を大切にする豊かな人間性を育成する道德教育の充実を図り、子どもたちが生命のかけがえのなさを見つめ、共に生きようとする心を育むことの重要性とその指導の工夫が呼びかけられ、15年度にも引き継がれている。

そこで、本研究では生徒の心に響く資料の開発と、生徒が自ら考え自分の言葉で道德的価値について語っていくことに満足感を覚え、自己の在り方、生き方について考えを深めよう

とする指導体制の工夫を第一とする。それを基盤として、高められた道徳観に基づいて学校生活を送ろうとする気持ちにつながる授業の在り方を実践を通して明らかにしていきたい。

研究のねらい

この研究は、「いのち」の重みを自覚し、自分を輝かす生き方を追究しようとする心を育む道徳教育の充実を図るために、「生命尊重」の価値項目に他の関連内容項目を連携させた「いのちの授業」を展開するものである。その中で、生徒の考える「いのち」の常識にゆらぎが生じる発問の工夫をし、資料を通した様々な生き方に触れることで、複数の価値を連携させた道徳の時間が自分らしいよりよい生き方の創造に向けた生徒自らの学びの場となることを実践を通して明らかにする。

研究の内容と方法

1 「いのちの授業」の視点

前述の行政の調査及び置籍校等でのアンケートの実態から浮き彫りになった、「いのち」のかけがえのなさの自覚を促していくための指導上の課題を、次のような手立てで解決していきたいと考えた。

(課 題)	(課題解決の手立て)
<p>(授業に関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしいよりよい生き方の創造に向けての手立てが弱く、授業の流れも新鮮に欠けるワンパターン化された授業体制となっている ・教師と生徒の一问一答のやりとりに終始し、生徒の思考や創造力が広がらない <p>(生徒に関しての課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から離れることのないワンパターン化された発問で、今まで培われた考え方を覆されるような自己決定を迫られたことがない ・生きていることを当たり前と捉え、周囲に支えられ、生かされている自分の存在に気づく体験をしてきていない ・自らの生き方が問われるような人物や資料との出会いの経験が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の関連内容項目と連携させた授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・誕生と死の両面を取り扱い、「いのち」の有限性や尊さへの考えを深める ・「いのちの授業」として単元化し、自らの生き方を追求する学びの時間とする ○小グループによる話し合い活動の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・小人数での交流を通してコミュニケーションスキルを高め、思考や創造力に広がりをもたせる ○子どもたちのもつ「いのち」の価値観に問いをもたせる発問 <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな思考を養い、社会の一員として生きるための力を養う ○保護者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・生命誕生の素晴らしさの実感を事象から焦点化させる手立てとして、誕生した時の思い出の品物や誕生秘話などの協力を呼びかける ○様々な生き方に触れる、心に響く資料の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・感動を基本とすることで、自らの生き方を振り返り、将来を見つめることができる

2 基本的な考え方

(1) いのちの授業

生命尊重の価値項目を重点とし、他の価値項目と関連させた「いのちの授業」は、子どもたちの自発的な興味・関心にもとづく学習であること、今日的な課題を焦点化することで自ら気づき、考え、自らを輝かせる生き方の創造を目指した学習とする。(図4)

その中心となるのが道徳教育である。この中で「いのち」を輝かすとは「生き方」を見つめることであり、自ら掲げた目標に向かってどのように歩いていくことが輝きに繋がるのか。そのために今の自分に足りないものを自覚し、周囲との関わりの中で何を吸収していくべきなのか思いを巡らした中で選択、判断、決定する自己調整能力を養い自分らしい生き方創造に向けての力を育成するのである。そして、この自己調整能力は様々な経験の中で培われる自尊感情によって養われる。自らの存在観が感じられ、自分の存在価値が認められる（自己効力観）ことで子どもたちは自信をもって自らの道を進んでいこうとする気持ちをもつのである。生と死を正面から見つめたり、様々な生き方から自分の生きざまを考えるのはそのためでもある。

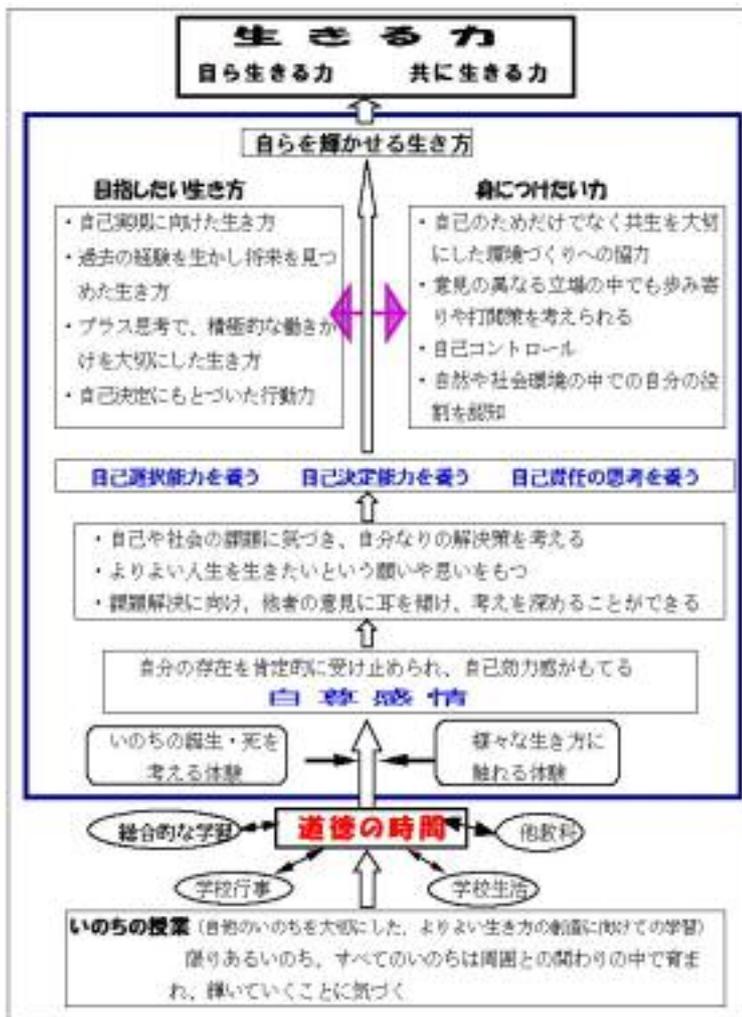


図4 「いのちの授業」の基本構造

(2) 「いのちの授業」展開のポイント

ガイダンス道徳で方向付け

ガイダンス道徳は、5時間構成の「いのちの授業」の授業開きの時間として位置づける。

- ・よりよい生き方の創造に向けて、「いのちの輝き」を追求しながら自己理解を深めていくことの大切さを促す
- ・自分の生きざまを輝かせていこうとする意欲を高める

今までの価値観を切り崩す授業で、子どもたちの自発的な興味・関心を引き出す

子どもたちは既にある程度の道徳観をもっている。しかし、その道徳観は表面的な理解にもかかわらず自分の考えを絶対視した認識であったり、現実の生活の中で、学んだ価値観が通用しなかった経験から、己の価値観を実践に移せず立ち止まっている者も多い。

そこで、今までの価値観を一端切り崩す授業が必要となるのである。今までの価値観が揺さぶられることで、子どもたち自身の中でそれを整理しようと新たな道徳的価値観への追究姿勢が生まれる。そこを道徳的価値の内面化を促す勝負どころと考え、子どもの価値観を切り崩す発問で価値判断を迫るのである。その追求過程の中で自分の生き方を振り返り、よりよい生き方の創造に向けた自己調整力が養われると考える。新たな価値の捉え方に耳を傾け、自分の経験を駆使して分析し、自らの言葉で道徳的価値を語ることは、自分の生き方を創造

していく上でためになったという効用感や感動を生むはずである。「え!？」という驚きと疑問をうむ発問で子どもたちの自発的な興味・関心を引き出す授業へ変えていきたい。

ア 子どもたちの『いのち』の価値観を切り崩す視点

普段「いのち」について考える機会が少ない活力に満ちた中学生には、「いのち」についてじっくりと取り組む学びの必然性を感じさせることが大切である。

右の図5は1学期に行った自分の誕生話を聞いてのアンケート結果である。自分の誕生を家族みんなが待ち望んでいたことを知り、気恥ずかしいがうれしいと感じたり、難産の末に生んでくれた親に感謝の気持ちをもったという生徒が17人(全体の53%)。その反面、自分の誕生話を聞いて何も感じない生徒が13人(全体の41%)であった。「命」の誕生を当然と受け止め、神秘的な確率の中で自分がこの世に生命を授かったという感動のなさが伺える。また、「いのち」について不平等だと思うこと(図6)では、現象面から捉えたことが挙げられ、「いのち」の輝きは寿命の長さや障害で決まるのではないという根本の理解が深められていないことが分かる。つまり、ここが子どもたちの価値観を切り崩していく突破口となるのである。授業では以下の2点を意識した。

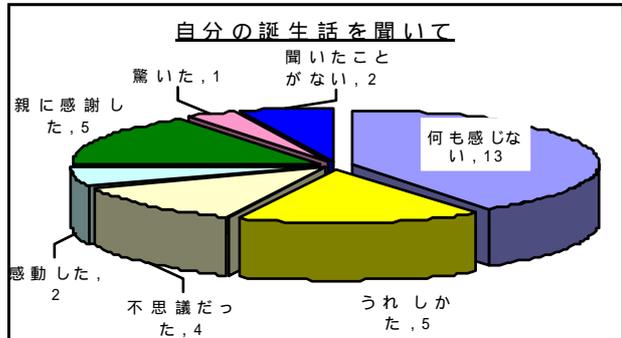


図5 自分の誕生の様子を聞いて

- 「いのち」の不平等な点
- ・ 寿命の長さ
 - ・ 殺される人がいる
 - ・ 障害の有無
 - ・ 病気を背負って産まれる
 - ・ 差別が生じる点
 - ・ 貧富の差
 - ・ 男女の性別

図6 生徒の考える『いのち』の不平等な点

「いのち」を多面的に把握させる

「いのち」は、有限でありながら連続性をもち、命の誕生は神秘的であるが生きることは現実的であること。また、みんなと共に生きる共生の精神を大切にしながらも個人の尊厳を守っていくことで輝きを増していくのである。子どもたちに必要なのは、ある一面だけで理解していた「いのち」を多面的に把握させることである。多面的な価値の把握は子どもたちの創造力を広げ、どのように生きていくことが自分に問われているのか、自由な発想で自らの課題に向けた学びを展開していく基盤となるのである。

視点を変えたものの見方や関わり方への意識を高める

多くの子どもたちにとって健康な毎日の生活は当たり前で、それ故健常者からの視点で物事を考える。ここに個人の尊厳性を配慮した行動への落とし穴がある。こういった視点を変えることで自分に足りないものが見えてくる。

本研究では、図7外側に示したような変容を目指して授業を組み立てた。

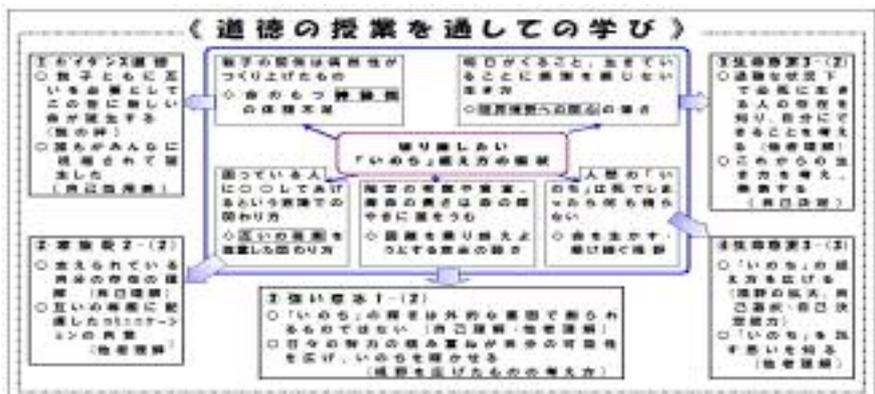


図7 変容させたい『いのち』の要素

イ 基本とする学び展開

図7に示した変容を促す1時間の授業の基本的展開を図8の通りである。

子どもたちの価値観を揺さぶるには、取り扱う資料が重要である。「こんな状況の中で何故生きなければならないのか」「どうしてここまで頑張れるのか」といった驚きや感動は、子どもたちを自ら課題意識をもって価値を追究していこうとする気持ちに駆り立てる。そして、その時に生じた『ゆらぎ』が少人数での話し合い活動に生きてくるのである。それぞれが感じたこと、気づきたことを出し合う中で自分と友だちとの考え方の違いに触れ、自己選

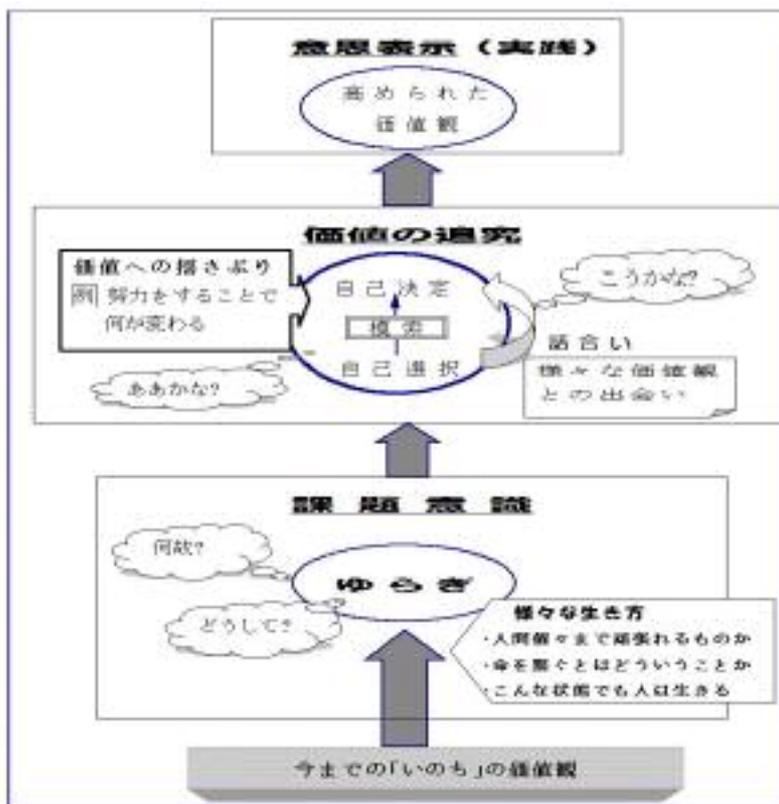


図7 道徳の授業における学びの展開の基本

択する行動は同じであっても根底の捉え方は様々であることに気付く。自己決定、実践に向けた模索を授業の中で位置づけることで価値観を高めることができ、自己決定した行動に対してさらなる揺さぶりをかけ自分の言葉でその行動の理由付けを迫る。これにより、自己責任を伴った一歩深められた道徳的価値への内面化が図れると考えた。

心に響く資料の開発で、子どもたちの感性に訴えかける

副読本による読み物資料は、子どもたちにとってワンパターン化されたものとして捉えられ興味・関心を引き付ける魅力に欠ける。心に響く教材を次のように考えた。

感動がある

資料を通して感じた疑問を、試行錯誤しながら解決に向けて考えた先に、達成感や満足感が得られる

感情移入がしやすく、自分の立場に置き変えて考えざるを得ない状況を作り出せる
内容に含まれる道徳的価値が明確で、様々な考え方を引き出せる

解説を必要とせず、子どもたち自身で状況把握ができる

タイムリーな話題であったり、自分たちと同じ世代が主人公である

そこで考えられるのが、視聴覚教材の開発である。テレビ世代である子どもたちにとって、インパクトの強い視聴覚教材は、資料の状況把握に解説を加えなくとも生徒自身で理解でき、感情移入もしやすいものである。資料で気付いた道徳的価値を自分の立場に置き換えることに抵抗がなく、共通の基盤に立った話し合い活動を展開していくのに視聴覚教材は適している。道徳的価値の追求の中で、本気で考え、話し合い、自分の言葉で語っていくことが価値の内

面化につながる。道徳の時間を、問題を提起して子どもたちの関心を高め、自己決定能力を養う場とするためにも、視聴覚教材の効果的な利用方法と収集を充実していくことが大切であると考える。

これまでの視聴覚教材を利用した道徳の時間とどこが違うのか

これまでも、視聴覚教材を使った道徳の授業は行われてきた。しかし、1時間の道徳の時間の大半をビデオやテレビの視聴に費やし、感想を書いて終了といった活用の仕方が多く、子どもの意識の変容に迫るという点では視聴覚教材の良さを生かすにいたのが現実だった。あくまでも資料は道徳的価値に気付かせるために存在することを意識し、視聴後の小グループによる意見交換の重要性を意識した活用を心掛けることが大切である。

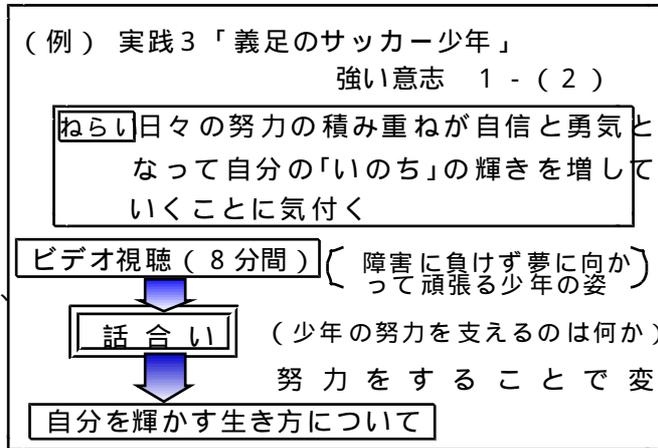


図8 ビデオの扱い

また、視聴覚教材のインパクトの強さを生かすためには、10分程度で提示できるように編集し、揺り動かされた気持ちをそのまま話し合いに生かして感情の共有を図ることが大事である。

連携道徳で複眼的に学ぶ

複眼的に学ぶとは、図9に示したように子どもたちの実態を考慮し、関連する7つの価値項目を学年の発達段階に応じて連携させた複数時間扱いの学習である。複数時間での扱いは生徒の課題意識をつなげ、多方面から一つの価値を追求していくことで内面化につながると考えた。『生命尊重』の関連価値項目としては、「思いやり」(2 - (2))、「自然への畏敬の念」(3 - (1))、「節制」(1 - (1))、「強い意志」(2 - (1))、「家族愛」(4 - (6))、「愛国心」(4 - (9))、「人間愛」(3 - (3))を考えた。

各学年の実態と関連価値の関係

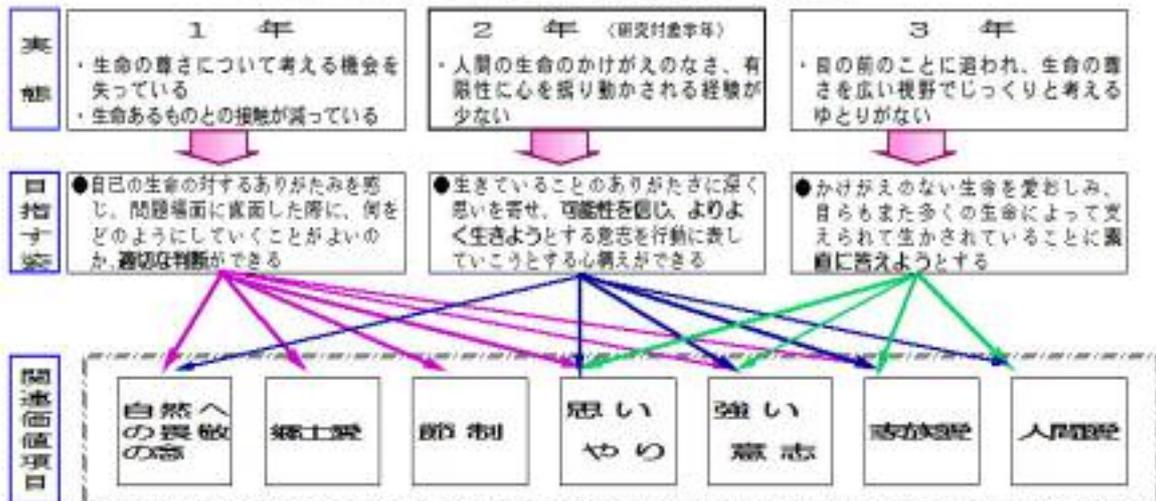


図9 「いのち」の重みを自覚した生き方の追究に向けた重点指導計画

中学生の生活を見ると、ペットとして動物を飼っている生徒も少なく、小学校の低学年から塾やお稽古ごとに追われる生活の中で、自然と戯れる機会が少なくなっている。また、核家族化の中で死や生命の誕生を目の当たりにして「いのち」の素晴らしさや生きることの価値を見つめることもなくなっている。そういった実態を受け、大きな可能性を秘めた「いのち」を自分自身がもち、受け継いでいることの自覚を促し、人との関係を考えさせていきたいという思いから、7つの価値を連携させることとした。

「いのち」のもつ大切さを自分自身の観点からを見つめるために「思いやり」や「強い意志」を、他者とのよりよい関わりを広げていくために身近な「家族愛」を始めとして「郷土愛」、「人間愛」へと視野を広げて展開していくこと必要であると考えた。

これまでの学校行事等を生かした道徳の時間とどこが違うのか

これまでも、1時間の授業に関係ある学校行事を生かして指導をするという方法はとられてきた。しかし、

『生命尊重』の価値には様々な価値が含まれており、発達段階における子どもたちの価値の理解度や捉え方などの実態に即した系統的な指導がほとんど行われない。その結果、子どもたちは他人事として価値の一面を理解するだけで、学んだことを自分の中に生かしていこうとするまでに至らない現状が見られる。そこで、図9に示したような、実態把握から出た課題に添って目指す姿を具体化し、そこから関連項目を選択し3年間を視野に於いた計画に基づいた学習を行うことが「生命尊重の内面化」に大きな効果を上げると考える。

これらを踏まえた全体像が、右の図10である。

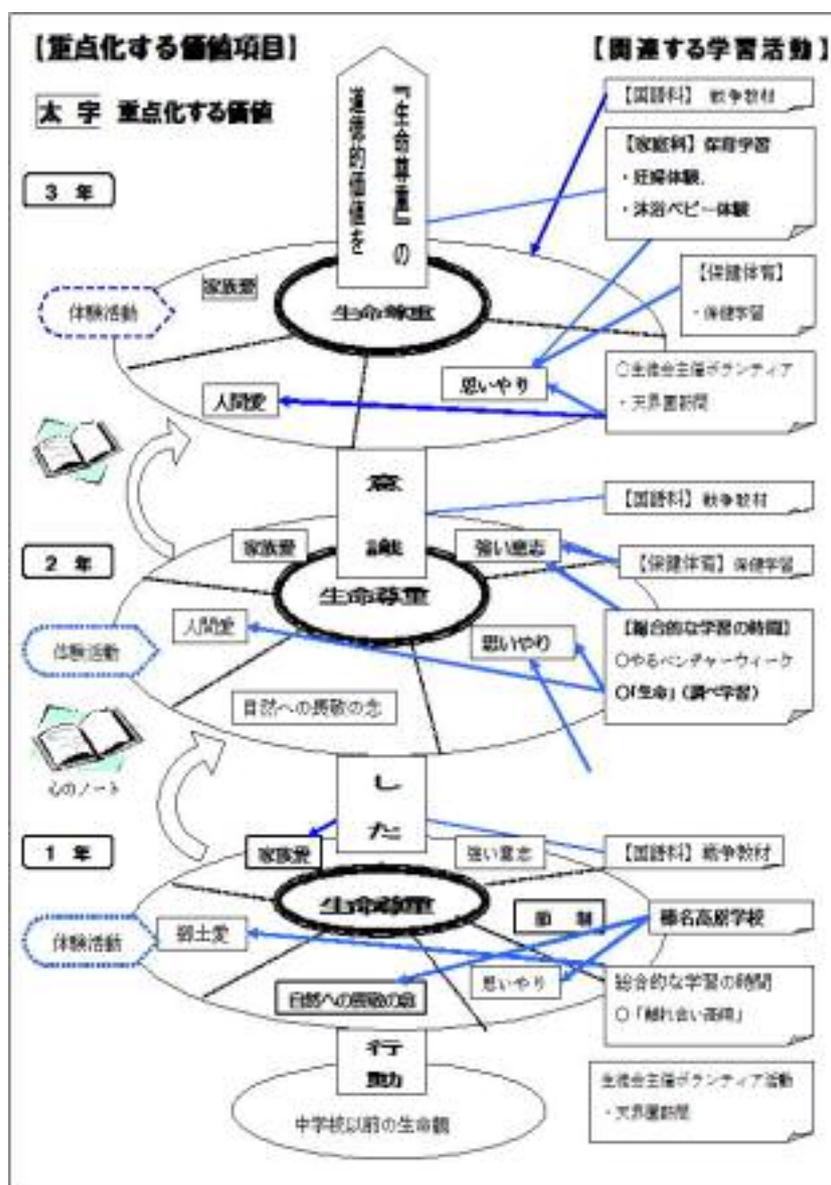


図10 各学年の実態と関連価値の関係

『いのちの授業』 全体計画 (中学2年生対象)

表1

☆活動内容 ★体験活動 ◻話し合いの形態 □支援 ◎評価の観点

価値項目 ☆活動内容	使用資料等 ◻話し合いの形態	評価と支援	打ち合わせ 事前準備、事後指導
<p>7月 ～ 9月</p> <p>☆いのちに関わる調査 ☆いのちの大切さについての今までの捉え方を振り返ろう</p>		<p>□『いのち』に対する考え方や、今までの行動を素直に振り返れるよう、じっくりと考えながら取り組める雰囲気作り努める</p>	<p>◇事前打ち合わせ ・授業日等 ・該当2学年教員 ・学級の事態把握 ◇事前アンケート ・保護者・生徒 ・教員</p>
<p>10月9日(木)</p> <p>ガイダンス遠征 『いのちの授業』聞き ☆単元がわかる ★自分の誕生について品物や手紙から感じたことを話そう ☆新聞報道にみる『いのち』の現状についての意見を出し合おう</p>	<p>・事前アンケートの結果 ・誕生にまつわる品物 ・洋服、靴、ヘソの結 ・母子手帳 ・写真、手・足形 ・新聞記事等 ・親からの手紙 ・命に関わる新聞記事 ・ワークシート 小グループ</p>	<p>□和やかな雰囲気の中で『いのちの授業』の単元計画を知らせる ◎これからの学習に、意欲的に取り組もうとする姿勢が見られるか □これからの道徳の学び方、学び合い方提示する</p>	<p>◇保護者との連携 ・誕生にまつわる品物や誕生届話等の協力要請 ◇保護者通知 道徳便り1</p>
<p>10月23日(木)</p> <p>授業実践1 家族愛4ー(6) ★コミュニケーションの大切さを体験しよう ☆家族に対する自分の関わり方を振り返り、課題を解決しよう</p>	<p>○読み物資料 『鈴虫が唄いだ』 「これが最新みんなのどうとく心の物語」(学研) ・ワークシート 小グループ</p>	<p>★立場の違いによる感情のすれ違いを実感するために耳栓使用の実験活動をする ◎関わり合いの問題点を自分のこととして家族との関係を振り返られたか</p>	<p>★耳栓、伝言用紙 道徳便り2</p>
<p>11月6日(木)</p> <p>授業実践2 強い意志1ー(2) ☆ビデオから「努力」について考える ☆困難に負けそうな心を支えるものを探る ☆「努力する意義」を考えよう</p>	<p>○視聴覚教材 『義足のサッカー少年』 一宮首13歳の挑戦ー日本TV 『真相報道バンキシャ!』 ・ワークシート 小グループ</p>	<p>◎ビデオのポイントを押さえて見ているか □現状の姿を否定するのではなく将来へ希望をつなげる ◎日々努力を積み重ねることで自分が成長できることに気づき、努力をしようという気持ちが高まったか</p>	<p>◇事前アンケート調査 ・障害をもつことからくるハンデの捉え方 ・困難に出合ったときの対処方法 道徳便り3</p>
<p>11月13日(木)</p> <p>授業実践3 生命尊重3ー(2) ★家族が脳死になったら臓器提供に同意するか、自己選択してみよう ☆臓器提供者の家族の声を聞き、提供家族の思いから『いのち』の有限性について考えよう</p>	<p>○「臓器移植」資料 ・トナカイ ・写真(移植患者) ・提供家族の手記 ○臓器移植シンポジウム 『NHKニュース』 ・ワークシート 全体討議(コの字型)</p>	<p>◎違う立場の人や、同じ立場でも、根拠に微妙な違いがあることに気付いたか □それぞれの意見を尊重しながら聞く ★教師から聞き出すのではなく、生徒同士で指名し合って話し合いを深めさせる</p>	<p>◇事前アンケート調査 ・臓器移植に対する考え ・臓器提供の意志の有無と理由 道徳便り4</p>
<p>12月4日(木)</p> <p>授業実践4 生命尊重3ー(2) ☆現実の厳しさと『いのち』のたくましさは目 ☆「私の生き方宣言」いのちについて学習を振り返る ★将来に向けて、「生き方宣言」として、『いのちの授業』での学びのまとめをする</p>	<p>○視聴覚教材 『マリナ』 NHKスペシャル ・相田みつをの詩 ・心訓七則 ・ワークシート 小グループ</p>	<p>◎現実の厳しさを受け止め、それでも逞しく生きる主人公の姿に、生きることの尊さを感じられたか □自分が再認識したこと、新たに知ったことを基に、生き方宣言ができるようにする ★自分を輝かせる生き方に向けての宣言作りとする</p>	<p>◇生き方宣言発表用画用紙の用意 ◇今までの『いのちの授業』のワークシート等 道徳便り5</p>

総合的な学習の時間

やるベンチャーウィーク

「自分らしい生き方創造」

「体」「心」「人」をキーワードとして各自で設定した『いのち』に関わる課題を追究し、仲間と共に生きる自分を創造する

必要な資料の收拾

個人課題の調査・追究

課題に対する自分なりの捉え方をまとめる

講演会 12/5
「あなたは感動の中で生まれてきた」

講師
木暮和江先生 (助産師)

・生命誕生の神秘性と素晴らしさ
・体験活動
「目下宿」

随室育成フォーラムで発表

総合的な学習の時間」との関わり

道徳の授業で学んだ「いのち」の尊さを自分らしい生き方の創造に向けて生かしていくには、道徳以外の活動との連携が大切になってくる。共生を目指す中で自己のよりよい生き方を追究する「総合的な学習の時間」での調べ学習と連携を図りながら「いのち」の学習を進めることは、子どもたちの「いのち」の尊さの理解を深め、実践に繋げていくのに次の点で有効だと考えた。

外部講師として日々新しい命の誕生と向き合っている助産婦さんから実話に基づいた「いのち」の素晴らしさについて話を聞いたり、体験活動を行うことは、道徳の授業で高められた「いのち」を輝かせるための生き方の自己選択能力をさらに高め、周囲の支えによって育まれてきた自分には、その「いのち」を精一杯生きる責任があるという自己責任の思考を育成すると考える。(図11)

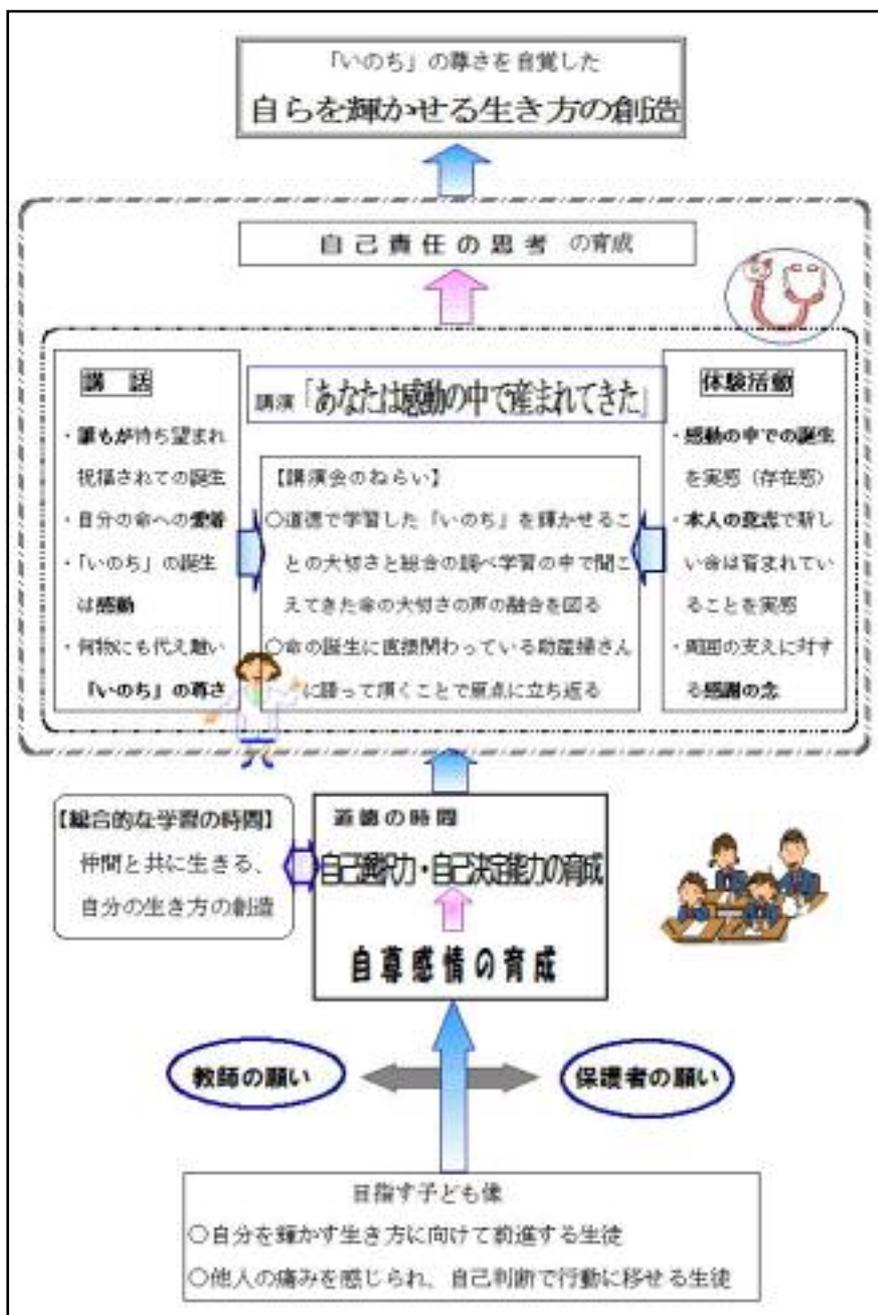


図11 「総合的な学習の時間」による講演会と「いのちの授業」の関わり

体験活動の内容	講師との事前打ち合わせの留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の心音を聞かせてもらおう ・胎盤・へその緒の実物を触ってみよ ・沐浴ベビー、妊婦ジャケット体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命は神秘的な絆の中で誕生することを強調 ・誰もが生まれ、感動の中で、誕生した事実 ・家族が見守る中で誕生する新しいいのちの素晴らしさ

V 実践の概要

学習の流れ

ガイダンス道徳
これからの「いのち」の学習への見通しをもつ

実践1「家族愛」4-(6)
家族との関わりを振り返りの中で、支え合いについて考える

自己効力感
学び方・学び合い

学び方・自己決定
自尊感情

学習活動

- ・誕生の思い出の品物や親からの誕生秘話の手紙を読むことで、絆の深さを知り、自分の存在価値に自信をもつ
- ・身近なたくさんの人に支えられて生きていることを感じ取る

学習内容

- ・老いの疑似体験を通して人との関わり合いで大切なことを実感する
- ・家族の一員としての自分を振り返る

学習のねらい

- ・「いのち」の大切さを意識して、生かされていることに感謝し、自分らしいよりよい生き方の創造に向けての意欲を高める

- ・家族の一員としての自己課題の自覚と解決策を探る
- ・互いに感謝の心をもった支え合いの関係を築く心を養う

工夫

- 保護者との連携による誕生の思い出の品物と誕生秘話
- 新聞記事

○体験活動

耳が遠くなった状態の人と話していると何度も聞き返されたりして疲れる。だんだん言葉が荒くなってしまった

子どもの様子



誕生の思い出の品物

保護者の方からたくさんのご協力をいただき、和やかな雰囲気でごガイダンスを始めることができました



ただ少し耳が聞こえずらくなっただけで、人とのコミュニケーションがうまく取れなくなると思わなかった。相手の身になって考えることは大切だとつくづく思った。



自分の品物を友だちに紹介

何でこんな事件を起さるのだろう。愛情が足りないせいかな？それとも他に原因があるのかな？

あまりの小ささに驚いた。でも、ずっと大切に取っておいてくれたのだと思うとうれしい。自分が大事にされていた証拠だと思う。親に感謝したい。

新聞を使っての話合い



支え合うとは

- 会話があり、助け合うこと
- 会話をして自分の苦手なことやできないことを伝えたり手伝ったりすること

実践3「強い意志」1-(2)
義足の少年の挑戦取材した
報道ビデオを用いて

自己の思考・思いに
みを問い直す

学習内容
・障害に負けずに夢に向かって努力
する仲間の姿に学ぼう
・日々の努力の積み重ねの大切さ
について考える

努力の積み重ねの自信が困難を
乗り越える原動力となることに気づ
き、夢に向かって自分の道を切り
拓いていこうとする心情を高める

○ 視聴覚資料(ビデオ)

自分の臓器の提供の意志は？

- 提供してもいい 14名
 - ・死んだのだから人の役に立ちたい
 - ・死んだのだからためらいはない
 - ・苦しんでいる人を助けたい
- 提供は嫌 17名
 - ・怖い
 - ・自分の死体をいじられたくない
 - ・知らない人にあげるのは嫌

自分の臓器はいりけれど、家族とな
ると感情的なところが違ってくる。

家族の臓器提供について

- 提供を承諾 …… 10名
 - ・義務感から 4名
 - ・移植事情への理解 5名
 - ・家族への思いから 1名
- 提供を拒否 …… 21名
 - ・肉親の情から 17名
 - ・死後への配慮から 1名
 - ・後悔 1名
 - ・自分では決められないから 2名

実践4「生命尊重」3-(2)
臓器移植問題における自分
の立場を明らかにする

価値観の交流・共有
自己決定能力

学習内容
・臓器提供への賛否を問う
・自他の「いのち」を尊重した生
き方についての意見交換

臓器移植問題を通してそれぞれの
死生観に触れ、自分の価値観
と照らし合わせて、「いのち」の
生かし方を考える

○ 体験活動
○ 視聴覚資料(写真・ビデオ)

臓器移植の現状の説明



家族の臓器提供は、死んでも
全ての臓器がそろったままで
いてほしいから嫌だな。



自分も家族の移植は
拒否だけど、理由はそ
れぞれ違うんだ。

出来上がった各自の
「生き方宣言」

実践4「生命尊重」3-(2)
まとめ・発表

自己存在の確認
自己理解・他者理解

学習内容
・これまでの「いのちの学習」を
生き方宣言としてまとめる

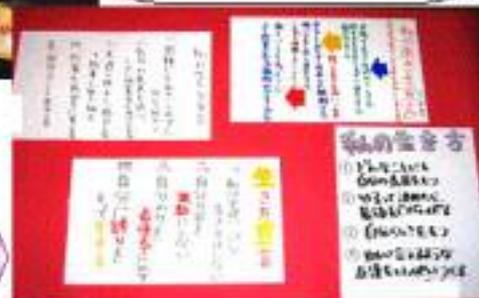
・VTRや一連のいのちの学習
を振り返り、それぞれの人生
に意味があることに気付く
まとめ方
・「生き方宣言」として、各々
の大切にしたい生き方に対
する考えを言葉で表現し、
交流・共有する

○ 視聴覚教材(ビデオ)
○ 発表

まずは、今までの学習の記録を繰
り返してみよう。自分のいのちを
輝かす生き方には毎日の努力が
大切だって思ったよな。



大切なのは、やっぱり、始めたことは
最後までやり通すことだな。みんなと
の意見交換では、自分に誇りをもって
生きることの大切さかな。





る自分なりの努力を積み重ねていくことが、将来の自分の可能性を広げ、自分自身の生き方を豊かにしていくために必要であり、自分の「生き方」に責任をもつことが「いのち」を輝かせることにつながる、というように考え方に厚みがでてきたのも確かである。

2 抽出生徒の変容 (ワークシートの記述から)

	抽出児 M	抽出児 K
抽出理由	「いのち」の尊さを前向きに捉える抽出児 M Mは、事前アンケートにおいて、「自分正しいと思ったことは信念を貫いて行動していきたい」と自分の生き方に前向きな生徒である。	「いのち」の捉え方の曖昧な抽出児 K Kは、事前アンケートで自殺について、『今は自殺をする人の気持ちが分からないから自殺は逃げと思うけど……気持ちが分かたら違うことを思うかなあー』という否定の仕方をしている。「いのち」の尊さについての認識が甘く、他への影響に考えが及んでいない。
関連価値を連携する中で の反応	【ガイダンス 道德】	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いのちは誰にとっても尊く大切にされることで輝く</div> <div style="font-size: 2em;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">親からの手紙 思い出の品</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分にとって命は勿論大じくらい家族も大切に思っている。支えられてると感じる。</div> </div>	
	親や自分の周りの「いのち」を自分のように思い、大切にしていきたい。	自分の個性が輝くように責任をもって行動したい
	【授業実践 2】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ハンデを乗り越えた先に大きな成功があるが、その成功を手に入れるには時間がかかり、精神的・肉体的負担に打ち勝つ主人公はすごい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">困難に直面したとき、困難を乗り越えるのと同時に自分にも打ち勝たなければ自分の問題を解決するまでには至らない。自分や周りへの甘えは、この先もそうしていく可能性を高くする。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">義足を障害と考えず努力を積み重ねる少年の姿</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">特別扱いされてもいいくらいなのに他のチームメイトと同様に扱ってほしいという気持ちはすごい。支えられているが主人公自身努力が一番大きいと思った。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">今までは、困難にぶつかったところで嫌になってあきらめたり、避けたりしてきた。でも、それじゃやっぱり何も進んでいけないと思った。</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【授業実践 4】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">極貧の中、物乞いをしたりして生活する同学年の子ども</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">いのちには無限の可能性があると思う。生きる希望を捨てなければどんなところでも生きていける。「いのち」はすべて平等だ、と改めて思った。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【授業実践 3】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">飯をあさつ ・ 家族の臓器 を見て ・ トナ-家族</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">自分の命がなくなるとMけしになるけど、自分の命で何人かの人を救えるなら、アラにできるんだと思った。提供する側は、死んで目や内臓がなくなっただけでハイ終わり。というだけだと思っただけ。そのあとそのおかげで助けられた人の中で、今度はその人が死ぬまでずっと生きることができるとはすごいと思う。今はまだ、怖いという気持ちがなくなったわけではないけど、家族ともそのことについて話し合ってみようかなと思う。自分は、自分の命をムダにするようなことは絶対にしないと。だから自分の命、友だちなどいる人、物の命を大切にしようと思う。「死ぬね!」とか平気で言ってる人がいる(自分も前は)けど、そういう言葉にも気をつけたい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">努力することで 普通は不可能なことが可能になる</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【授業実践 3】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Q トナ-家族が動機移植の推進を呼びかけるのは何故か?</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">移植を希望する人は、提供してもらえれば残りの人生を過ごせる、臓器を提供した人も、受け取った人の中で、脳死のまま過ごすよりもはるかに多くの時間を生きられるから、どうせ死を迎えるなら他人の中で長く生きてほしいという思いのように、人の気持ちや願いにどんなものがあるのか、初めて知った。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【授業実践 4】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Q「いのち」の重さは本当に同じなのか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">「いのち」は自分だけのものではなく大切なもの。辛いことがあっても死を選ぶことはしたくない。同じように友だちに死を感じさせるようなことを言ったり、やったりしてはいけないことだと思う。自分で自分の生きる責任を取ることが「いのち」を大切にすることに繋がると感じた。</div>	
価値の切り崩し効果		

切だが同

提供の同意
声を聞い

抽出児Mに期待すること	抽出児Kに期待すること
<p>「いのち」は自分で生かしていくものという理解に付け加えて、どのような「いのち」の価値観に気づき、自分の課題を見つけて高めていくことができるか深まりをみたいと考えた。</p>	<p>周囲の思いが一人一人の「いのち」には託されていること、自分の生き方に責任を持つことで「いのち」は輝きを増すことを自覚し、自分らしい生き方の創造を目指す大切さを学んでほしいと考えた。</p>
<p>ワークシートの記述に見る生徒の変容の分析</p>	
<p>ガイダンス道徳 ガイダンス道徳での『「いのち」は誰にとっても尊いもの』(M)、『(自分のいのちに)責任をもって』(K)のといった両者の記述は、何故いのちは大切なのか、親の思いを知ること、「いのち」の誕生に関わる自己有用感を出発点とし、「いのち」を輝かせた生き方を追求していく契機となったことが分かる。</p> <p>実践2や4は、資料を通してストレートに価値が浸透した。</p> <p>実践2 「今まで困難から逃げていた自分のままではなんの解決も前進もしない」(K)、「周りに甘えることは自分に負けてしまうことで、この先もそのようにしていく可能性が高い」(M)と自分を振り返って「いのち」を輝かす方向を探っている様子が見える。</p> <p>実践4 「辛い、悲しいことがあっても死を選ぶことはしたくない」(K)、「いのちには無限の可能性がある。生きる希望を捨てなければ…」とあるように生きることへの執着心の大切さが理解され、「いのち」は大切といった1つの理解だけでなく、「いのち」のもつ連続性や可能性など連携した授業を組むことで、様々な視点を広げて見つめることが可能になった。</p> <p>実践3 また、前の時間につかみきれなかった自己の課題を連続させての授業形態を取ったことで、理解が深まっていった様子が見られた。Kは実践1の中で関わり合いの大切さを挙げた。しかし、この関わり合いの課題が何かを具体的につかめたのは、「(自分も前は)『死ね!』とは平気で言っていたけどそういった言葉に気がついて…いろいろな人・物のいのちを大切にしたい」とまとめて書いていた実践3の授業を通してである。</p> <p>関連価値項目を連携することで、一方的な「いのち」の見方に縛られた価値の追求から離れ、深まりをもった価値の追求が可能になった。また、視点は違っても、日常生活に生きないぼんやりと理解で終わることなく、繰り返し考える中で明確になるなど効果は高かったと言えるであろう。「いのち」は生き方の根本である。じっくりと道徳的価値に触れ、考える連携した道徳を組むことが大切であると再確認した。</p> <p>その大切な「いのち」を輝かせていくために、今自分がしっかりと見つめなければならない「いのち」の課題の把握の様子の記述をたどっていくと、連携道徳の2つの良さが見えてきた。</p>	
<p>実践3の義足のサッカー少年では、障害をもつことはハンデであると捉えていた生徒が大半を占めた。MやKもそういった考え方の一人であった。しかし、サッカー選手を目指しているという主人公は、「障害はハンデではない」と言い切る。</p> <p>では、『何が障害となるのか』、『明らかに大変な状況の中でどうして頑張るのか』といった発問は、努力を重ねて自分も頑張っているMにとっては、やっぱり自分を追い込み、乗り越えたときにすばらしい人になれるのだという考えをさらに強くさせたようで、生き方宣言の中でも1番に「己の問題は己で解決する」ことを挙げている。反対に、今までは困難なこととはなるべく避けたいとしていたKにとっては、「困難にぶつかったところで嫌になって避けたりしてきたが、それでは何も進んでいかない」と述べ、考え方に変容が見られた。</p>	

保護者との連携の効果について

ガイダンス道德の実施に当たり、保護者に生徒が誕生したときの思い出の品物と感想の協力をお願いした。全部で62点の品物（絵本、ぬいぐるみ、ベビー服、ベビー靴、写真、命名の紙、母子手帳、へその緒、誕生の新聞、手形・足形、絵、等）の協力と16名の感想をいただくことができた。思春期にさしかかる中学2年のこの時期は、自分一人で成長してきたような錯覚に陥りやすく、親に対して素直になれない時期でもあるが、小さな服や、誕生を待ち望んでいたことが書かれた手紙に「いのちは自分だけでなく人に支えられている・家族や親類も自分のいのちを大切に思ってくれている」（K）、「親を大切にしたい」（M）など感謝の気持ちが自然に語られた。「いのち」の教育は学校だけで成り立ちものではなく、家庭との協力が必要である。保護者からも「面と向かって大きくなった子どもに生まれてきてくれてよかったなんて言えないが、手紙には当時を振り返って伝えられた」との声も聞かれ、同じく生徒も手紙という形だからこそ受け止めやすかったという面が見られた。「いのち」の絆を見つめさせるのに保護者の協力は不可欠であったと考える。



誕生の思い出の品々の一部

心に響く資料の開発について

実践3と実践5において、ビデオを資料として用いた。実践3は報道番組からとったもので、障害に負けずひたむきに練習に励む姿に、「やっぱり誠自身の努力が1番大きい」（K）、「精神的にも肉体的にも負担が大きくなっているのにそれに打ち勝とうとしているからすごい」（M）と、KもMも圧倒されていることが分かる。同年代の取組ということもあり、部活動等で頑張る自分にも置き換えて努力を続ける価値を互いの経験を出し合いながら追求することができた。また、実践5で使用したビデオの中に出てくるストリートチルドレンの子供たちの姿に、「生きていくことをあきらめない姿に感動」（M）、「死を選ばずに生きる」（K）として、生きることへの執着を感じることができたようである。

この二つの資料に関しては、26人（81%）の生徒が自分のことに置き換えて考えていくのにとっても効果的であったという結果が自己評価表からも出ている。目から入ってくる現実子どもたちの心を引きつけて放さないといった事実を大いに活用すべきだと感じた。

小グループでの話し合いの取り入れについて

実践1での話し合いは、道德で話し合う経験もなかった上に、時間もなく、班長が意見を聞いていくだけで終わってしまったが、回を重ねて慣れてくるにつれて、「しっかり書いてあったので発言した」（実践1）から、「思ったことが結構あったので意欲的に意見を出した」（実践2）というように、少し活発に意見を出し合うことができるようになった。さらに「発表はできたけど、（下書きの）文が長くて（みんなに）わかりにくかったかも」（実践3）というように自分の発言の内容を振り返ったり、「人の意見を聞いて他の視点からも考えていった方がよかった」（実践3）のように改善を自ら求めていこうとする動きも見られた。まだまだ討論と言うにはほど遠いが、上から押しつけられる道德ではなく、自分たちで考える深める道德の入り口に立てた話し合いであったと考える。



小グループによる話し合いの様子

抽出児の変容のまとめ

ガイダンスを入れた5時間の「いのちの授業」の中で、抽出児の二人が特に話合いに集中して取り組んだのは、ビデオを通しての同い年の仲間の生き方（実践2，実践4）についてであった。大きな障害を物ともせず、ひたむきに、そして遅く生きる彼らの姿は、現在の豊かな生活を当たり前とする自分たちの姿を振り返らずにはいられない強さをもっていた。さらに、二つの資料の内容は相反する要素をもつ。日々の努力の積み重ねが己の道を開いていくとした実践3に対して、どんなに努力しても変えられない現実の中ではいつくばるように生きる実践4。子どもたちからみれば、前回の授業では、努力すれば命は輝くはずだったんじゃないかという価値の崩壊を起こす。この、根底からの揺さぶりが掛けられるのは価値を連携させた単元的な授業を組んだからである。だからこそ、Mは自分なりに学びとった人権の大切さを意識した宣言をし、Kが「いのち」を絶対にムダにしたいくないと宣言できたのではないかと考える。

2 「総合的な学習の時間」での講演会と連携させたことによる効果について

日々新しいいのちと向き合っている助産婦さんからの話は説得力があり、授業の中で、学ぶことは違った新鮮さや驚きがあったようである。性に目覚めるこの時期、気恥ずかしさから「いのち」の大切さについて真剣に考えることに躊躇していた生徒が、「こんな大切なことをバカじゃないと思っていた自分を反省した」と記録用紙に書いたように、外部の人材をうまく活用することが価値の内面化に大きな変容を生

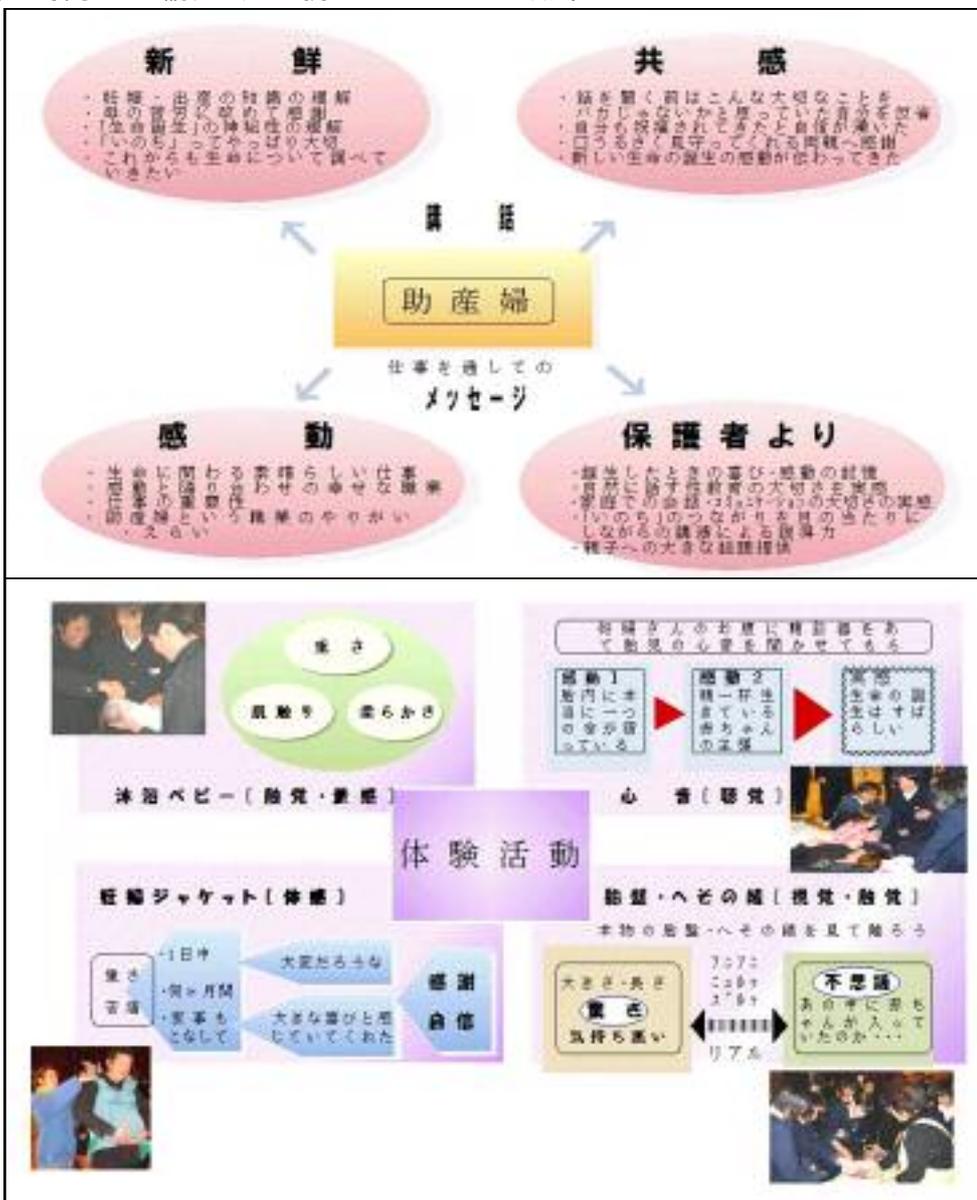


図15 講演会での子どもの学び

むことができたといえよう。

また、胎児の心音を聞いた生徒が、「心音は、赤ちゃん自身が生きたいという意志を伝えている音のように聞こえた」と感想をもったように、講演の中で体験活動を取り入れたことは、「いのち」の神秘性や親の惜しみない愛情の中で自らの存在が育まれてきたことを実感するのに効果的であったようである。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

重点価値項目を深めていくために複数の価値項目を組み合わせた連携道徳を実践して感じたことは次の通りである。

教師は、目指す子ども像をしっかりと掲げ、道徳的価値を多面的に捉えた上で子どもたちのもつ価値観を切り崩す手立てを盛り込んだ道徳の授業の展開を大切にすべきである

- ・様々な生き方に学ぶのは、自分の生き方を輝かせるためという柱を大切に授業展開とする
- ・自分のもっている価値観を再吟味させる発問で子どもに自分を見つめさせる
- ・一人一人の感情を共有できる小グループでの話し合い活動を大切にする

生命に関わって「家族愛」「強い意志」を連携させたことで生命尊重の価値に対する視野は広がった。これは、「いのち」の誕生にたくさんの人間が関わるのと同じく、「いのち」の授業について誕生から死までを様々な視点で追究したことからである。「いのち」について深く学び、実感し、自己選択した生き方を考えることが自分をよりよい方向に導いていくのだということを授業を通して実感できること、これこそが連携の強みであったと感じた。

このことから、「いのち」の重みを自覚し、自分を輝かす生き方を追求しようとする子どもを育む指導には次のことを実践していくことが重要であると再確認できた。

自分のいのちを輝かす生き方に向けて、様々な生き方に触れさせ、子どものゆらぎを具体的に表現させていくことで思いをふくらませていく

- ・子ども自らが価値に気づき、自分の変容を実感していけるように繰り返し指導する
- ・子どもの発達段階に合わせた指導の基となる、全体計画・年間指導計画を作成する

2 今後の課題

今回の『つなげて深める「いのち」の道徳教育』の「つなげる」段階では、手紙等の協力要請という部分でしか保護者とのつながりをもてなかったが、

保護者や地域の人等を外部講師やパネリストとして招き、世代や立場を超えた「いのち」の捉え方の共有と、学校から発信する道徳を目指す

伝統や伝承といった「こころ」の受け継ぎも「いのちをつなぐ」に含めて取り扱うの2点を課題として、引き続き研究を続けていきたいと考える。

< 主な参考文献 >

- ・大宮美智子、捧 陽子 等著、近藤 卓 編 『いのちの教育』 実業之日本社 (2003)
- ・杉原 一昭 著 『危機を生きる』 ナカニシヤ出版(2001)
- ・植田 清宏・山口 昌則 著 『総合ユニット方式による道徳学習』 東洋館出版社 (2000)